

還暦・古希・喜寿そして

傘寿談議

徳島剣山世界農業遺産支援協議会 会長

永井 英彰

雨の中、急傾斜地農法を学ぶ

徳大生が三年連続で穴吹訪問

あたら
新しき
年の初めの
初春の
今日降る雪の
いや重け吉事
(万葉集 大伴家持)
平成二十九年の元旦を迎えるに当たって新年のご挨拶を申し上げます。

新年もまた混沌とした状況にありますが、若者は志が高く夢を叶えるべく邁進して欲しいと希望します。現役世代は日本の骨格を支えるよう尽くして欲しいと切に望みます。私たち老人は元気を一番と心得てできるだけ医療費を使わないようにしたいと

思います。筆者も今月名実ともに満八十歳の傘寿を迎えます。最近はいギリスのEU離脱、アメリカのトランプ大統領の誕生や、資本主義に疑問が生じるなど変革の時代に突入しています。つまり、社会で従来当然とされてきた制度や価値観に「待た」が掛かつて疑問符が付けられたのです。私達が支援している「剣山系を世界農業遺産に」という運動や徳島市春日で始めたカヤ敷農法の実験も、後述する西洋医学に対する見直しも、従来の価値観に対する反省かも知れません。何があつても堂々として生きて行き

ましよう。
三回目の穴吹調査
十二月二十七日、徳島大学の学生六十一人(玉真之介教授引率)がバス三台で美馬市穴吹町を訪れ、世界農業遺産の認定を目指す県西部二市二町の急傾斜地農法の特徴などについてフィールドワーク(現地調査)を行った。

同大学で「日本の農業を考える」講座を受講する各学部の一学生が参加、今年で三年目となる。私達徳島剣山世界農業遺産支援協議会からは鳴門渦潮高校・林博章先生と筆者が毎回アドバイザーとして参加している。

二行は同町西山で下車し、西谷経由で瀨名まで約一時間かけて歩いた。筆者の乗った2号車の女子学生が西山の手前で気分が悪くなり下車、隣席の学生も介護のため降りた。山中に二人だけを残すのも気がとがめたので、筆者も降りた。バス酔い学生は元気となり二行に追い付いて行ったが、筆者は次第に遅れて、二時間近く掛かってやっと追いついた。

現金収入に薬草栽培
瀨名地区では、雨の中、地元住民がテントを設営、収穫した里芋や大根などで作った豚汁や草餅を振る舞ってくれた。筆者もこの豚汁が大好きで、お代わりをした。この地区では現金作物として「ミシマサイコ(三島柴胡)」という薬草を栽培している。ミシマサイコは本州から四国・九州の日当たりの良い山野に自生す

る高さ30-50センチ位の植物。花期は8-10月で小さな黄色い花を多数咲かせる。しかし、生薬として使われるのはその根で、解熱、鎮痛作用があり漢方方に配合される。薬学部学生は関心を示し、根も見せてもらっていた。小雨を見計らって二行は少し山を登り、ススキを積み上げた「コエグロ」を見学した。

病気は自分で直す
二十四日、撫養新農業研究会例会がJR鳴門駅前の井上ホールで開かれ、大阪市門真市正幸会病院副院長、栗原幸三医師がゲストとして講演された。

先生は数年前から戦国時代の柳生心眼流武術を起源とする「腱引き」を学び、体の不具合は手足の骨間筋を刺激する骨間筋ケアにより「自分の体の不具合は自分で直せる」という「骨間筋メソッド」健康法を編み出した。

鍵を押して肩こりを直す栗原先生(左端)



谷間の雲にはえるコエグロ



地元の野菜で作った豚汁



奥から豚汁を次々に回す



ミシマサイコの茎や種(上)と薬効のある根の部分(下)



鍵を押して肩こりを直す栗原先生(左端)

講演の前に肩や腰に痛みのある出席者十人ほどに次々と触り、其々たちどころに痛みを和らげて行った。昔戦場で傷ついたり、打撲を負ったりした仲間を逸早く楽にして連れ出すために施術した療法だという。治療を受けた人は「腰が楽になりこれでしたら早く元気に農作業ができそうだと喜んでいました。」

先生は「体の痛みは良い事で、動きにブレーキを掛けてくれている。しかし、不都合は医者でなく、自分でしか直せない。ではどうするか。毎日自分の体の全身、特に足を触る事。そして体の腱を刺激し骨間筋を鍛えるのが良い。そうするとグレイゾーン、レッドゾーンとなつている場所の可動域を拡げることができるようになる」と話された。先生は美馬市穴吹町井口の古民家を取得、「知足庵」と名付けて徳大大橋教室と組み、毎月、自然療法体験教室を開いている。栗原先生の教えを受け、筆者も毎晩の入浴時に全身の腱引き筋をほぐしている。

徳大で市民シンポ

翌二十五日、市民シンポジウム「古代より阿波を考える」(大橋真教室主催)が開かれ、栗原医師の他、NPO呼

吸大学・宮本二住氏、野田靖之先生、林博章先生、リッチハニカム片岡豊社長、それに筆者が其々講演した。

呼吸大学創始者の宮本さんは次のように話した。

京都・法隆寺や正倉院は古い木造建築だが朽ちることなく現存している。それは横風でなく「縦の風」が呼吸しているからである。床は風が通るように隙間があり、天井は張られず、屋根瓦は隙間から風が抜ける仕組である。その知恵は古民家にも生かされている。地面を塞ぐ床張りも飛び打ちで屋根も茅葺のため風が通る。湿気も澱んだ空気も全て屋根から抜ける仕組みとなつている。ところが、現代建築はコンクリートで地面を塞ぎ密閉した部屋を良くしている。こんな場所で暖房すれば「頭寒足熱」の正反対となる。寒さ対策は着るもので工夫するのが健康に良い。縦に通る風を生かした木造建築を見直すべきでないか。

農業遺産、一次通過

農水省は二十四日、今年あらたに認定制度を設けた「日本農業遺産」と、国連食糧農業機関(FAO)に認定を申請する「世界農業遺産」の候補として、徳島県西部二市二

町の急傾斜地農法」にし阿波の傾斜地農耕システム」など九県十地域が、専門家会議の第一次審査をパスしたと発表した。四国では香川、愛媛も通過している。今年三月にかけて現地調査とプレゼンテーションの最終選考を実施する。日本農業遺産が決まるとともに、世界農業遺産の国際審査に提案する地域も決まる。

童謡の発表会

十二月二十六日、四国大学音楽ホールでピアノ演奏者と童謡愛唱歌の修了演奏会が開かれた。曲目は里の秋、紅葉、野菊、虫の声、誰もいない海、七つの子、小さい秋見つけた、赤とんぼーという秋のメドレー。筆者は本番の途中で咳が出そうになり、少し口パクでこまかした。上野美貴先生が高音の旋律を歌うと全体がそれなりに上手に聞こえるから素晴らしい。いつも伴

奏をしてくれる竹内郁子講師が盛装して、シヨパンの「革命」を独演されたが聴き応えがあった。今度は春の歌にも参加したい。

ジャズダンス発表会

十二月十一日、ダンススタジオオひまわり主催の発表会がアステイとくしままで開かれた。宝塚出身の瀬戸内美八さんが三十三年前に設立、二年ごとに発表会を開いていて今年が第十五回という節目に当たる。広い多目的ホールの最上段を残し満員の観客が詰めかけた。

三歳児からの可愛いプチクラスの順番に祖父母や知人が声援を送る。最前列近くには知人が筆者を見つけてくれた。妻も長年席も構えてくれた。妻も長年参加させてもらっているが、最年長者となり、「救心」片手に出演した。新品のカメラキヤノンM5を構えているのだが、

同じような服装なので探すのが「苦労で、後で焼き増ししたらロスもたくさんあった。多目的ホールは緻密が無く、階段が多く楽屋が遠い。前日に練習しただけの即本番だったので、関係者は大変だったと思う。閉幕後に瀬戸内さんにお会いしたので「長年妻がお世話になりました」と挨拶したら「まだ続くんじよ」と返された。妻はどうするのだろうか。

カヤ束を更に増やす

十一月十八日、知人から「旧吉野川南岸で国交省がカヤを刈っている」との連絡を受け、軽トラで二往復分の五十束を徳島市春日の実験田へ運んだ。時々これを畑へ敷いたのでほぼすべてを覆うことができた。小麦も見て判る位に大きくなつてきた。年末にはプロッコリーも初収穫。ソラマメも植えた。



シヨパンを独演する竹内郁子講師



ジャズダンスの発表会



カヤの間から芽を出した小麦



春日で栽培した紅葉苔(なのは)を使った一品(煮浸し)